若狭と蓮如を結ぶ上に注目すべきところである。

文明七年（一四七五）八月二十一日夜、朝倉経景（つねかげ、敏景の弟）、平泉寺衆徒等が吉崎の下間安芸（しもつま、あき）を討取るため夜討ちをかけ、山上の多屋、宿坊に火を放った。不意をくらった蓮如は自分の身の危険を感じ、「かゝる情忌嫉妬による不慮の災厄を起す等言語道断」とばかり、坊侍大家久吉に吉崎の七曲りの崖下に小舟を一艘用意させ、多屋の坊主、門徒たちにも別れを告げず、吉崎を見捨て、慶門坊、赤尾弥七、大家久吉（彦左エ門）等を随い暗闇を利用し脱出した。一説には蓮如と船頭小加次弥の二人ともあり、このとき蓮如の警護に当った人が誰れか、確証できる資料がなく、後世いろんな人が出るのである。

蓮如は塩屋浦より小舟で日本海を若狭に向い、この蓮如の後を追って長男順如・弟子の竜玄、徳善それに蓮如の後妻山名女房四人も便船で吉崎を脱出し、蓮如とは一諸の舟ではなかったのである。

若狭の真宗

武藤正典

蓮如の吉崎退出

若狭地方の真宗は、越前、江北のような発展はない。仏教各宗派に比し少くない真宗が遠敷郡にかたまってあることは、本願寺第八代蓮如が越前の吉崎浦から若狭に逃れ、小浜甲ヶ崎へ上陸後、丹波街道を通り摂津へ向う際、しばらく遠敷地方に滞在し教化したことを物語るもので、真宗史上、

「蓮如上人遺徳記」に「南呂下旬頽齢六十一にして吉崎の禅室をたち給ひ、順風に帆をあげ、ひそかに若狭の小浜に船をよせ、丹波の険阻を通りつつ摂津国へ出でたまひ、それより河内国茨田郡中振の郷出口の里という処に至り給ひ、幽栖をし給ふ事すでに三年なりき」。「帖外御文五十四帖」には、「去文明七歳乙未（きのとのひつじ）八月下旬之候、予生六十一にして、越前国坂北郡細呂宜郷の内吉久名の内吉崎之弊坊を俄に便船の次をよろこびて海路はるかに順風をまねき一日がけにと志して若狭の小浜に舟をよせ丹波づたいに摂津をとおり、この当国当所出口の草坊にこえ、一月・二月・一年・半年とすぎゆくほどに、いつとなく三とせの春秋を送しことは、昨日今日のごとし云々、文明十一年十二月日」（本願寺所蔵蓮如真筆）、また「帖外御文四十九帖」の奥堂「千時文明九丁酉月廿九日、愚老六十三歳、如此之文躰おかしきをかへりみず、寒天之間嬉辺にありて徒然のあまり老眼をこひ翰墨にまかも書之者也」とある文書も、五十四帖と全ったく同じことを書いてあり、蓮如自身が老躰で文章がおかしいのもかえりみずと自覚しているように、内容は一寸変なところがある。蓮如の吉崎脱出には諸説があるが、帖外御文の第十六通に「八月二十一日」と明示され、普通これが通説となっている。

「海路順風をまねき一日かけにて若狭の小浜に着く」とあるため、従来、蓮如は吉崎から小浜まで一夜で着いたと述べ、簡単に流しているが、これには大きな疑問があり。「越前国名蹟考」には「経景平泉寺をかたらひ下間を討ん為に吉崎へおしよせ火をつけ戦ふにより九月四日暁、上人船に乗て若州小浜に立退給う」とある。しかしこの九月四日の吉崎退出は間違いで、蓮如が若狭の小浜へ着いた日が九月四日である。高道正信著の「蓮如」には、蓮如は吉崎を退去してから加賀の小塩（現在の橋立港）、芳成坊へ逃れ、九月四日まで居住して吉崎の状況を眺め、事態がいよいよ悪化し危険を知り、未練があった吉崎をあきらめ若狭へ立ち去ったとある。

人目を避け、木ノ葉のような小舟で波荒い日本海を渡るのは容易なことではなく、八月下旬から九月上旬は二百十日前後の台風の多い季節で海上は荒れる頃である。「拾椎雑話」には、「小浜より船の里数として、小浜より越前三国へ三十五里、敦賀へ十八里」とあるが、小舟では一日、七、八里しか進めないのが常識で、海上に漂い、浦々で休息し、その間十四日を費し九月四日朝小浜の甲ヶ崎へ上陸したと考えるのが常識でなかろうか。

また、蓮如の吉崎脱出は予定の行動ではなく、突発事故の非常の際で、荷物は勿論、充分な食糧、飲料水等を舟に積み込む余有のないのは当然で、吉崎浦から小浜まで、その間食糧、飲料水、睡眠等を得るため、日本海の沿岸、三国、川西、越廼、越前、河野、敦賀、三方、小浜の浦へ補給のため立ち寄ったことと考えられる。日本海沿岸浦の人々の蓮如に対する保護がなかったなら蓮如の命はどうなっていたかわからない。したがって蓮如以後の真宗の発展は見られない、真宗史上きわめて重要なことであるが、吉崎脱出後、蓮如が若狭へ着く

までの海上経路については、現在までまだ一度も解明されたこともなく、また証明できる資料も現在の時点では困難である。「若越水上交通図」に、塩谷、三国、河野、敦賀、丹生、常神、小浜浦が記され、この日本海沿岸に現在設立されている真宗寺院は、当初はほとんど道場で江戸時代中期以降寺院に昇格したものであるが、強いて考証すれば、こうした浦の寺の成立、蓮如との関係資料、伝承に基いて蓮如の足跡を究明する以外他に方法はないのである。

こうした、真宗寺院は、蓮如の立寄りを契機とし、帰依し、創建または改宗等で発展したものである。

しかし、蓮如が日本海沿岸の浦へ立寄るに際しても偶然立寄ったのでなく、朝倉氏の武力支配権が強い、警戒の厳しいところを避け、また古い伝統的権威を持つ旧平安伝教の大寺院、強い組織を持つ宮、庄園の領家地、代官職のいる浦等は、己れの身の保護のできないことを充分知っていて舟は着けず、専ら村落共同体の形成、郷村制の確立をみていないところや、かって蓮如自身が足を入れ教化した処を選んで着船していることが理解できるのである。

蓮如が自から「海上順風一日がかり」と故意に記しているのは、蓮如の逃亡と、それを追求する平泉寺、朝倉側のため、後難、迷惑を考慮した故意の文章で、果して蓮如の吉崎退去後、蓮如が最も恐れていた一向一揆の嵐が、この事件を契機として一世紀余にわたって越前を吹きまくっているのである。

若狭路の連如

越前吉崎を退去し海上若狭の小浜甲ヶ崎へ上陸した蓮如は、小浜から丹波街道を経て摂津国に入っているが、若狭での蓮如の記録は全ったく残っていない。蓮如自身は、「今の人は古をたづぬべし、また古ひとは古をよくつたふべし、物語はうするしのなり、書したるものはうせず候」と云っているが、「蓮如上人御一代聞書」でさえ、「文明七年九月四日、未明俄かに吉崎退去」と間違った聞き方で書き残されている。

蓮如は文明七年八月二十一日夜吉崎浦を小舟で退出し、翌九月四日朝、小浜市の甲ヶ崎に舟を着け上陸、しばらく若狭に滞在し小浜周辺を歩いているが、若狭滞在期間の確証は不明で、蓮如が吉崎脱出後最初の「御文」は、文明七年十一月二十一日書之とある。出口光善寺で北陸の山海を回顧して書いた、「開山聖人御正忌ー愚老この四五ヶ年のあいだ、北陸の山海のほとりに居住すといへども、はからざるにいまに存命せしめ、この当国にこえはいて云々」とあり、文明七年十一月中旬にはすでに出口光善寺に入っている。これより考証し蓮如の若狭滞在期間は、文明七年、九月、十月の二ヶ月間の短期間で最も気候のよい時季で、奥田縄の「浄正寺由緒記」に、「文明七年九月二十七日、蓮如上人当国御巡錫云々」と蓮如の日程が明確に記され、「蓮如上人遺徳記」の中にも「若狭の小浜に船をよせ、丹波の険阻を通りつゝー」とある。蓮如は九月四日から十月初めまで遠敷地方を歩き中旬には摂津に向い小浜街道、丹波街道を歩いていたようである。

甲ヶ崎上陸後の蓮如の足跡を追究すると、当時の西津村は、北塩谷、福谷、堀屋敷が北川寄りにあり、北東の天ヶ城山、丸山等の山麓一帯まで西海岸が迫り、大湊、小湊、松原、塩谷、堀屋敷、小松原、福谷を西津浦と称し、甲ヶ崎は内外海（うちとみ）村に属し、舟着の要浦で、若狭、仏谷浦を経て、甲ヶ崎浦に舟を着けた蓮如は、こゝから三町程小浜寄りの西津福谷の漁夫の家に足を入れ休憩しているのである。この漁夫の家が後、道場となり、本願寺派念称寺、念正寺となった。文政七年（一八二四）三月、岡野定静、佐藤義安の「雲浜城下全図」の中に、西津福谷村射場道路沿いに念称寺が描かれ、享保年間、念正寺由緒書には、「長禄三年（一四五七）本願寺第七世存如の門弟浄西の開基、文明七年蓮如甲ヶ崎上陸の際の旧跡なり、永正十年、実如裏書の本尊を伝える」とあるが、現在は廃寺となり、寺跡には墓石と「蓮如上人御旧跡」の石碑が草にうもれていて、寺の尊像、過去帳等は同じ西津の善教寺（本願寺派）に移され保管しているが、実如裏書の画像はない。古老の話では、終戦直後まで寺の建物はあったが、無住寺のため本堂の屋根は腐り、災害等で建物は失われた、しかし宗教法人の解散届はしてないため寺跡はそのまゝになっている。善教寺は西津板屋町通りにあり、明応七年、正賢の創建で、蓮如とは直接関係はない。西津で疲労を休めた蓮如は、こゝから当時瀬木町（現在玉前町）にあった妙光寺（現在神田五四）に入り、寺伝では一夏逗留したとあるが、蓮如は妙光寺で腰を落ちつけ、教化したようで、このとき蓮如に帰依し弟子となり創建、改宗した寺に、願応寺（広峰九四）、蓮興寺（神田二）がある。妙光寺は貞和三年（一三四七）比叡山南谷妙光坊が若州に創建し天台宗で足利尊氏の祈願所であったが、蓮智が本願寺覚如に帰依し改宗。存如も滞在しその関係で蓮如も逗留したのである。寺領三百石を賜わり、慶長年間現地に移っている。願応寺は、文明七年、蓮如が妙光寺滞在中、蓮宗が蓮如に帰依し松寺小路に一寺を建立し、領主武田氏の末裔、祐西が相続し、慶長年間、川縁（現在地）へ移ったと伝える。蓮興寺は宮前町と穴脇町の角にあるが、昔は向島（現在の長源寺）にあって、蓮如が妙光寺滞在中、蓮如の弟子となった妙観が、守護武田国信に寺地を受け建立した。元亀元年、徳川家康もこの寺で宿泊している。小浜市の真宗寺院は二十カ寺程あるが、蓮如と直接関係がある寺は前記四カ寺で、過去幾多の災害のため、証明できる資料は現在はない。小浜から摂津へ向った蓮如の足どりは、先ず、妙光寺を出発し、口田縄から道を奥田縄に向け、こゝで足を休めている。

現在奥田縄の浄正寺（本願寺派）の「由緒沿革」に「文明七年九月二十七日、本願寺第八世蓮如当国御巡錫の砌、真言宗なり、一信者あり、御教化を蒙り弟子となり法名道信と改め、蓮如上人真筆の六字名号を賜わる。当地字小杉谷に念仏道場を建立これ当寺の起源なり」とある。慶長年間火災で記録は焼失したが、文政五年十月二十二日、現在地に移り本堂を建立し寺に昇格したようである。文明七年九月二十七日、蓮如が若狭の奥田縄の山奥にいた記録がある

ことは貴重なことで、この奥田縄から蓮如は中井に入り、こゝでも休憩し、そのあとが現在の西広寺（大谷派）である。中井から相生に足を入れている。現在相生の了源寺の記録では、観応元年（一三四七）、覚元の開基で真言宗であったが、文明七年九月、蓮如が立寄り弟子となり改宗。現在境内に蓮如が腰かけ休んだと伝える大きな山石が残っている。相生を出た蓮如は、田茂谷、谷口から現在の名田庄村に入り、名田庄の小倉畑で滞在しているので、現在小倉畑光久寺（大谷派）の寺伝には、寛正二年（四六一）、河内の人、中野新三郎が天台宗正覚坊を創建したが後世、文明七年、蓮如が小浜西津に上陸し丹波街道を摂津へ向う途中、当寺に宿泊し、ときの住職が蓮如に帰依し改宗するとある。宝永、元文両度の火災で記録は焼失しているが、現在の親鸞聖人御影の裏書には、「大谷本願寺釈実如（花押）、永正六年己巳六月八日、若狭国遠敷郡名田荘智見、願主釈正覚」と書き、なお蓮如の「夏の御文」は、こゝで書かれ、原本があったが焼失したという。現在の本堂は寛政九年六月の再建である。蓮如の小倉畑の滞在期間は明確には困難であるが、隣村の挙野でも教化し、挙野の光徳寺（大谷派）の由緒記には、天文元年二月僧了誓が開基、天台宗、または禅宗であったが、蓮如が立寄り真宗に改宗、初めは道場で現在の下にあり寛永年間現在の山の中腹に再建、寛文十二年寺となるが、無住期間が長く、明細なことは困難である。こゝから蓮如は若狭での最後を名田庄の中村に滞在したが、現在妙応寺（大谷派）の記録では、創建年代不明だが、天台宗密厳院と稱し、足利尊氏の一族玄斉が開基、文明七年、本願寺蓮如が滞在し、その際住職の真了が蓮如に帰依し願宗寺と改めた、蓮如は数日滞在し近在七カ村帰依するとあるが、現在近村七カ所に真宗門徒も寺もない。願宗寺は後、住職玄含が石山合戦に参加し、天正十四年一月二十三日、大阪府笠寿町に寺を移し無住となったが、安永五年智同が再興し妙応寺と改めたもので、現在、寺の法使法身尊像裏書には「大谷本願寺釈実如（花押）延徳二年庚去三月十二日、若狭国遠敷郡名田庄中村、願主釈道昌」と記し、顕如上人画像裏書には「慶長九年七月十十（ママ）一日（二十一日）、若州名田庄中村、願主□□」とある。蓮如は、この名田庄中村を最後に文明七年十月上旬若狭を離れ丹波へ向っている。地元では昔から諺に「京は遠うても十八里」とあってこの時の一里は五十町で、小浜、土橋から丹波境の坂本まで六里十二町である。

小浜の甲ヶ崎へ上陸した蓮如は、西津の稱念寺、妙光寺に滞在して小浜街道を丹波に向う途中、奥田縄、中井、東相生、で滞在しているが、小浜から後瀬山の東を抜け谷田部峠を越え、谷田部の部落を通って南川の西端に沿って口田縄で南川を渡り、奥田縄に入ったのか、小浜から南川の舟運を利用し口田縄まで舟できたのかその点は確証はない。今から六十年程前では南川は舟が利用され、小浜から久坂まで日用品等の諸物資を積んで上り奥名田方面の木材、木炭を積んで小浜に帰っている。蓮如は奥田縄から南川の東に沿い、中井、東相生、小倉畑、挙野に滞在し、昔は南川を渡らず

日本海沿岸の本願寺係寺院

沿岸	沿岸浦	蓮如関係寺	備考
	波松	正賢寺	文明六年創建
		慶照寺	文明三年創建
三国海岸（三国町）	下真砂	永正寺（東）	天文年間永正が創設、文明年間蓮如に帰依し改宗
	台	智教寺（東）	天徳二年新郷角屋に建立、真宗高田専修寺派が蓮如に帰依し改宗
	岩崎	専立寺（西）	開基脇谷義治、文明年間蓮如に帰依改宗、天文年間岩崎山専立寺
	新保	慶法寺（西）	真言宗で灌頂寺と称し後世真宗に改宗時代不明
		受恩寺（西）	長録二年上川正勝建立、天台宗が文明六年蓮如に帰依し改宗
	宿	円蔵寺（東）	昔真言宗、文明四年蓮如に帰依し改宗
		敬勝寺（東）	昔は天台宗で文明年間、蓮如に帰依し改宗
	池上	善教寺（東）	文明五年、蓮如に帰依し浜坂に建立順照寺と称し文明八年加賀に移り、再び当地に移る
	竪	西光寺	文明年間、蓮如に帰依し建立
	米ケ脇	西光寺（東）	天台で川尻にあり、文明七年蓮如に帰依し改宗寛文五年移る
		西徳寺（東）	昔は天台宗、文明年間蓮如に帰依し改宗
川西海岸（福井市）	白方	善覚寺（東）	南北朝時代泥原新保で天台宗灌頂寺と称し何時の時代か移住改宗
		仏護寺（東）	寛文年間以降建立
	石橋	浄光寺（東）	教如に帰依し改宗、西畑村にあり延宝二年現地に移る
	和布	西願寺（東）	江戸時代は道場、明治十三年寺となる

川西海岸（福井市）		
免鳥	光徳寺（東）	文明四年蓮如に帰依し道場建立、明和五年寺に昇格
蓑浦	大行寺	朝倉敏影時代、小林盛等が出家し創立、竜宮山と称した
長橋	円立寺（東）	文政八年建立
大丹生		
小丹生		
鮎川		
越廼海岸（越廼村）		
大味		
浜北山		
居倉		
蒲生	専徳寺（東）	昔は真言宗仁和寺未永録年間改宗
	養安寺（東）	
大石		
左右		
越前海岸（越前町）		
玉川		
梅浦	了林寺（東）	
	長徳寺（東）	
	円満寺（東）	朝倉時代の創建で延宝六年東本願派となる
	専浄寺（西）	真言宗で専照寺と称し後天台宗となり延宝五年本願寺派となる
	令久寺（西）	天正四年建立、初め大谷派元録三年本願寺派に改派

越前海岸（越前町）		
厨	璃岑寺	寛文年間創建
宿	善性寺（西）	天正年間建立
新保	西徳寺（東）	天文三年創建延宝七年本願寺派改派
新保	洋信寺（西）	不明
小樟	着景寺（東）	昔は真言宗明応年間本願寺に改宗
黒崎		
大樟	福正寺（西）	真言宗伏樟寺と称し天正年門本願寺派に改宗
茂原		
白沢		
高佐	発願寺（西）	文明四年創建
河野海岸（河野村）		
米浦	蓮光寺（東）	昔は真言宗、後真宗高田派となり慶長十一年本願寺大谷派に改派
糠		
甲楽城	了善寺（東）	
今泉	途相寺（東） 忍通寺（東）	長保四年天台宗で創建、文明三年本願寺に改宗
河野	通伝寺（西）	昔天台宗、文明年門蓮如に帰依し改宗河野城守若林氏菩提寺
大谷		
敦賀海岸（敦賀市）		
元比田		
大比田	蓮教寺（東）	文明年間創建
横浜	高雲寺（東） 願立寺（東）	

美浜海岸（美浜町）					敦賀海岸（敦賀市）													
坂尻	今市	竹波	丹生	白木	浦底	色浜	手浦	沓	縄間	名子	二村	櫛	松島	江良	挙野	五幡	阿曽	田結
			恵誓寺（東）							明光寺（西）			願通寺（東）					興隆寺（西）

美浜海岸（美浜町）	和田	
	早瀬	浄妙寺（西）
		慶長十二年教如の弟子法春開基
三方海岸（三方町）	日向	
	常神	
	神子	
	小川	
	遊子	
小浜海岸（小浜市）	田鳥	元海寺
		勝福寺
	矢代	
	大熊	
	阿納	
	加工	
	西小川	
	宇久	
	松崎	
	竪海	
	仏谷	
	阿納尻	

小浜（小浜市）	甲ケ崎	正念寺
	福谷	念正寺
西洋	善教寺（西）	

専ら川東の山麓に街道があってこの南川の東に沿って中村で滞在し、こゝから丹波街道に入っている。「稚狭考」に「小浜より京にゆくに丹波八原通に周山をへて長坂より鷹峯に出る道あり、其次に八原へ出ずして渋谷より前方、山国に出て行く道あり」この二つの道があって、南川に沿って逆行し、名田庄谷の久坂から南に曲り、堂本から知井坂を越え八原に出で周山を経て長坂より鷹峯に出る道で、これが昔の重要路で京への最短距離で、昔は奥名田の名産の鮎を京へ運搬するにはこの道が利用されたといわれ、恐らく蓮如もこの道を歩んでいるのであろう。「大平記」にも「蓮朝長坂を経て越前へ落ちゆく際に、蓮朝は姉小路西よりしづ〳〵と都を落ちて千本より長坂にかゝり北国へ趣く」とあって、この道が利用されていた。現在利用されている自動車道は、納田終から堀越峠を越える道である。蓮如が小浜から丹波街道を通り摂津へ向ったのは文明七年九月下旬から十月上旬であったことは上記のとおり確実である。従来、蓮如は上中町の鳥羽谷を下り山内に滞在し、熊川街道を通って丹後を越え、山づたいに丹波に入ったと書いてあるが、これは間違いで、熊川街道は蓮如が文明三年五月、大津南別所近松から越前へ逃げたとき通った道で、「堅田本福赤明記」には「文明三年四月云々、蓮如は若狭ったいに越前に入り云々」とあって、上中町地区の真宗は、蓮如の吉崎退去とは関係なく、むしろ越前に入ったとき蓮如と関係が生じたもので、これに関しては次の機会にゆづる。

〔史料〕

英林寺蔵　（鯖江市新堂町）

裏書

越前国今北郡河島保新堂　願主道円

大谷本願寺親鸞型人御影

文明八年丙申四月十六日　釈　蓮如　花押

聖人御影

ヨシサキ過半

デクチ成就畢

四月十六日　花押

注、英林寺住職の注釈

吉崎で大方、できあがっていたものであるが、出口で完成されたものであるという。

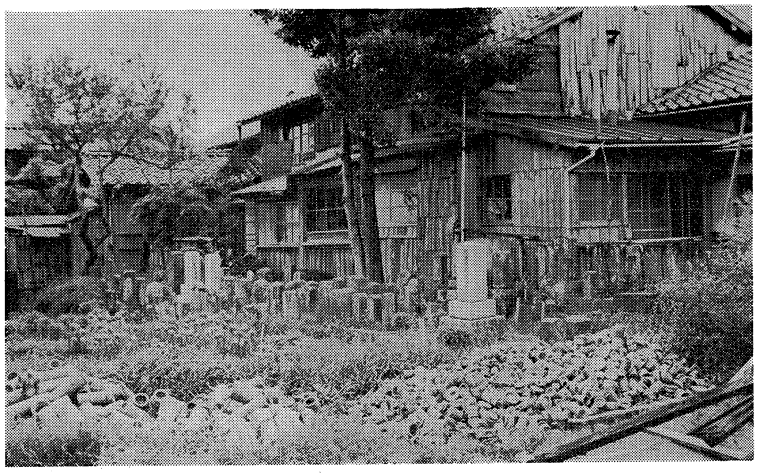
釈蓮如　花押

文明八年丙年六月廿八日

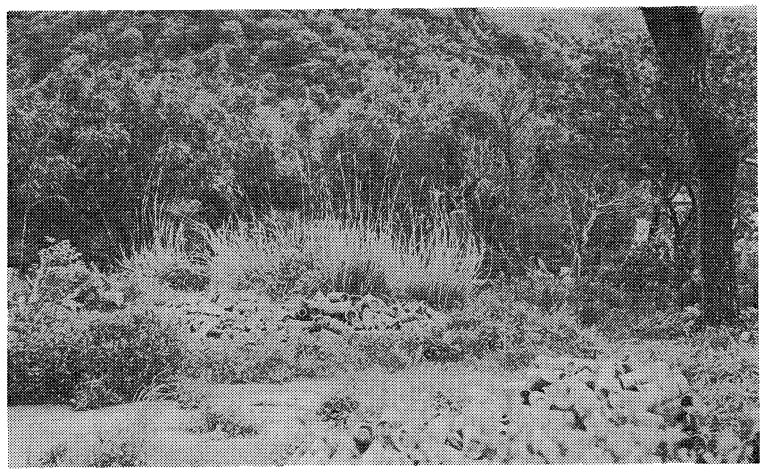
大谷本願寺親鸞聖人御影若狭国大飯郡小浜庄妙光寺常住物也

願主　釈了悟

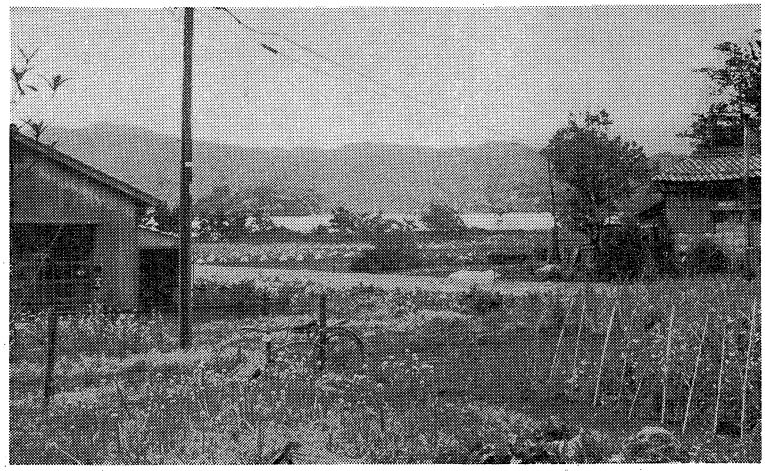
（県教育委員　文化財係長）



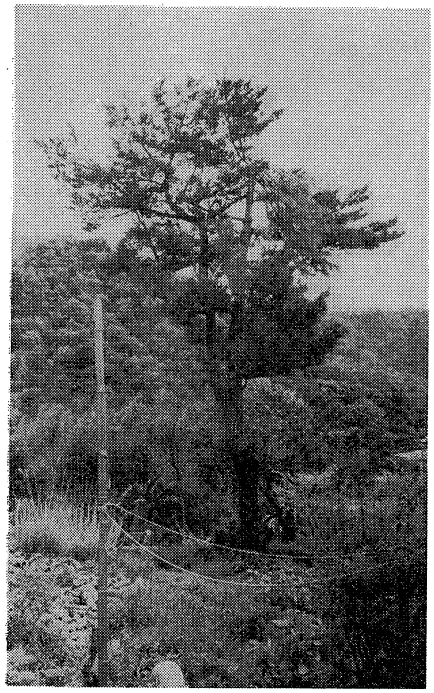
小浜市西津
念正寺廃寺跡



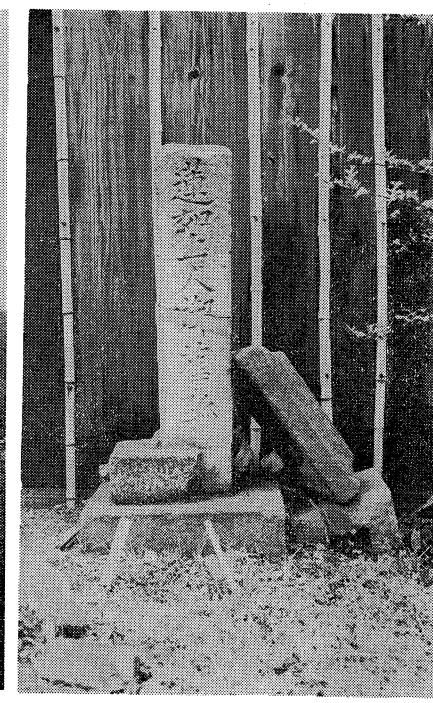
上記に同じ



蓮如が上陸した小浜市
甲ケ崎浦の全景



小浜市西津
念　正　寺　跡



小浜市西津
念　正　寺　の
「蓮如上人御旧跡」の石魂